



2022年5月9日

各 位

会社名 中部飼料株式会社
(コード番号：2053 東証プライム・名証プレミア)
代表者名 代表取締役社長 平野 晴信
問合せ先 常務取締役管理本部長 伊藤 敏宏
(TEL：052-204-3050)

新中期経営計画のお知らせ

この度、「新中期経営計画」(2023年3月期～2025年3月期)を策定いたしましたので下記のとおりお知らせいたします。

具体的な内容につきましては、添付の資料をご参照下さい。

記

新中期経営計画の概要

当社は、ローリング方式による中期経営計画を策定しております。

2023年3月期～2025年3月期の3か年においては、飼料価格安定基金負担金の増加による販売費及び一般管理費の大幅な増加やエネルギー価格高騰による製造コストの増加、積極的な設備投資による減価償却費の増加などが見込まれます。

売上高は堅調に推移するものの、利益水準が下がることが予想されますが、当社はお客様への飼料の安定供給責任を万全に果たすことを使命とし、以下の基本戦略を着実に実行することで強い収益基盤を構築してまいります。

- ① 飼料セグメントの規模拡大と収益力向上(畜産飼料・水産飼料)
- ② その他セグメントの事業成長の加速(鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等)
- ③ 成長する収益基盤を支えるサステナビリティ経営の推進

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
2023年3月期	212,000	2,200	2,600	1,800
2024年3月期	208,000	2,300	2,700	1,850
2025年3月期	203,000	2,600	3,000	2,100

- (注) 1. 連結子会社みらい飼料株式会社を2024年3月期の期中に伊藤忠飼料株式会社へ売却する予定のため、売上高は減少の見込みです。ただし、みらい飼料株式会社はコストセンターのため、利益に対する影響は軽微であります。
2. 本資料は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上

新中期経営計画（2023年3月期～2025年3月期）

中部飼料株式会社

東証プライム・名証プレミア 証券コード：2053

2022年5月9日

新中期経営計画の前提条件

項目	内容
原料ポジション	22.3期の水準で算出 ⇒ 23.3期1Qは悪化し、2Q以降は改善すると見込む ⇒ 24.3期以降は23.3期比で改善すると見込む
電力費・燃料費	22年4～6月の見込みで算出 ⇒ エネルギー価格の高騰が続くと費用増加につながる
基金負担金	22.3期（実）： 600円/t（上期400円/t、下期800円/t） 23.3期： 1,250円/t（22.3期比+650円/t） 24.3期以降： 1,420円/t（23.3期比+170円/t） ⇒ 原料価格の高騰が続き、高額な補てん金が発動すると基金負担金はさらに増加する可能性あり
畜水産飼料の市場流通量	市場流通量はほぼ横ばいで推移すると見込む ⇒ 疾病・廃業等により減少する可能性あり

新中期経営計画（23.3期～25.3期）

【 経営ビジョン 】

社是：特性ある仕事をして社会に貢献する

特性ある畜水産物づくりと
 お客様の生産性向上に寄与し
 お客様とともに成長する



畜水産業界の持続的成長に貢献

豊かな食生活に貢献

【 基本方針 】

お客様への飼料の安定供給責任を万全に果たし
 規模拡大と収益力向上により、強い収益基盤を構築する

3

基本戦略

【 基本方針 】

お客様への飼料の安定供給責任を万全に果たし
 規模拡大と収益力向上により、強い収益基盤を構築する



【 基本戦略 】

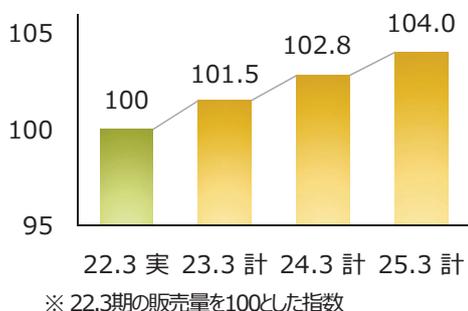
1. 飼料セグメントの規模拡大と収益力向上（畜産飼料・水産飼料）
2. その他セグメントの事業成長の加速（鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等）
3. 成長する収益基盤を支えるサステナビリティ経営の推進

4

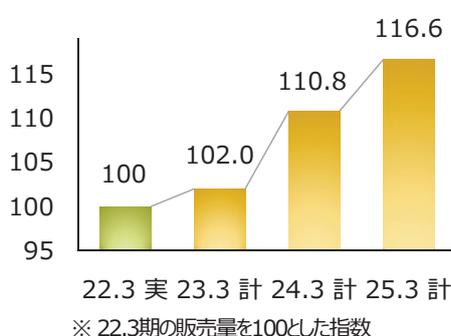
畜水産飼料

- ◇ 畜種別及び地域別戦略の推進
- ◇ 環境に配慮した飼料の開発・販売による差別化飼料比率の向上
- ◇ 付加価値のある畜水産物の販売強化による飼料の拡販
- ◇ 製販一体、自社一貫生産体制の強みのスピード感を生かした『提案営業』の強化
- ◇ 積極的な設備投資による製造能力の増強
- ◇ 製販一体となったコスト改善及び生産性向上活動の継続

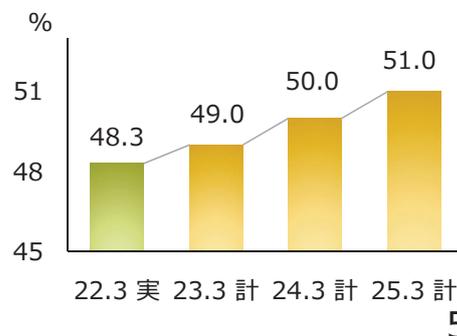
畜産飼料 販売計画



水産飼料 販売計画



差別化飼料の売上高構成比



5

基本戦略 2 : その他セグメントの事業成長の加速

鶏卵販売

- ◇ 特殊卵「ごまたまご」の拡販
- ◇ 特殊卵「平飼いシリーズ」のブランド化推進
- ◇ 外食・業務用向けの特殊卵の販売強化

肥料

- ◇ 有機入り配合肥料の強み（環境負荷が少ない等）を活用した販売強化
- ◇ 関東の生産拠点である神栖工場の製造設備増強による拡販

畜産用機器（子会社：中部エコテック）

- ◇ 畜産用機器の新規・追加設置の獲得、買換需要の掘り起こしを推進
- ◇ 中国、東南アジア等への販売強化
- ◇ 下水汚泥処理用機器の新規拡販

保険代理業（子会社：ダイコク）

- ◇ 畜産保険の販売を通じて生産者へ貢献
 - 疾病・災害等へのリスクヘッジ機能を訴求した販売強化
 - 飼料事業へのシナジー効果

6

サステナビリティ経営の推進

◇ サステナビリティ委員会を推進母体としてESGの取組みを推進

Environment（環境）の主な取組

- ◇ 温室効果ガス排出量の削減
 - 2030年までにCO₂排出量を2020年度に比べて30%削減を目指す

Social（社会）の主な取組

- ◇ 働きやすく働きがいのある職場づくり
 - 安全な職場環境の実現
 - 働き方改革に対応する制度構築

Governance（ガバナンス）の主な取組

- ◇ 取締役会の実効性向上
 - 東証プライム市場における新コーポレートガバナンスコードへの対応

7

新中期経営計画の定量計画

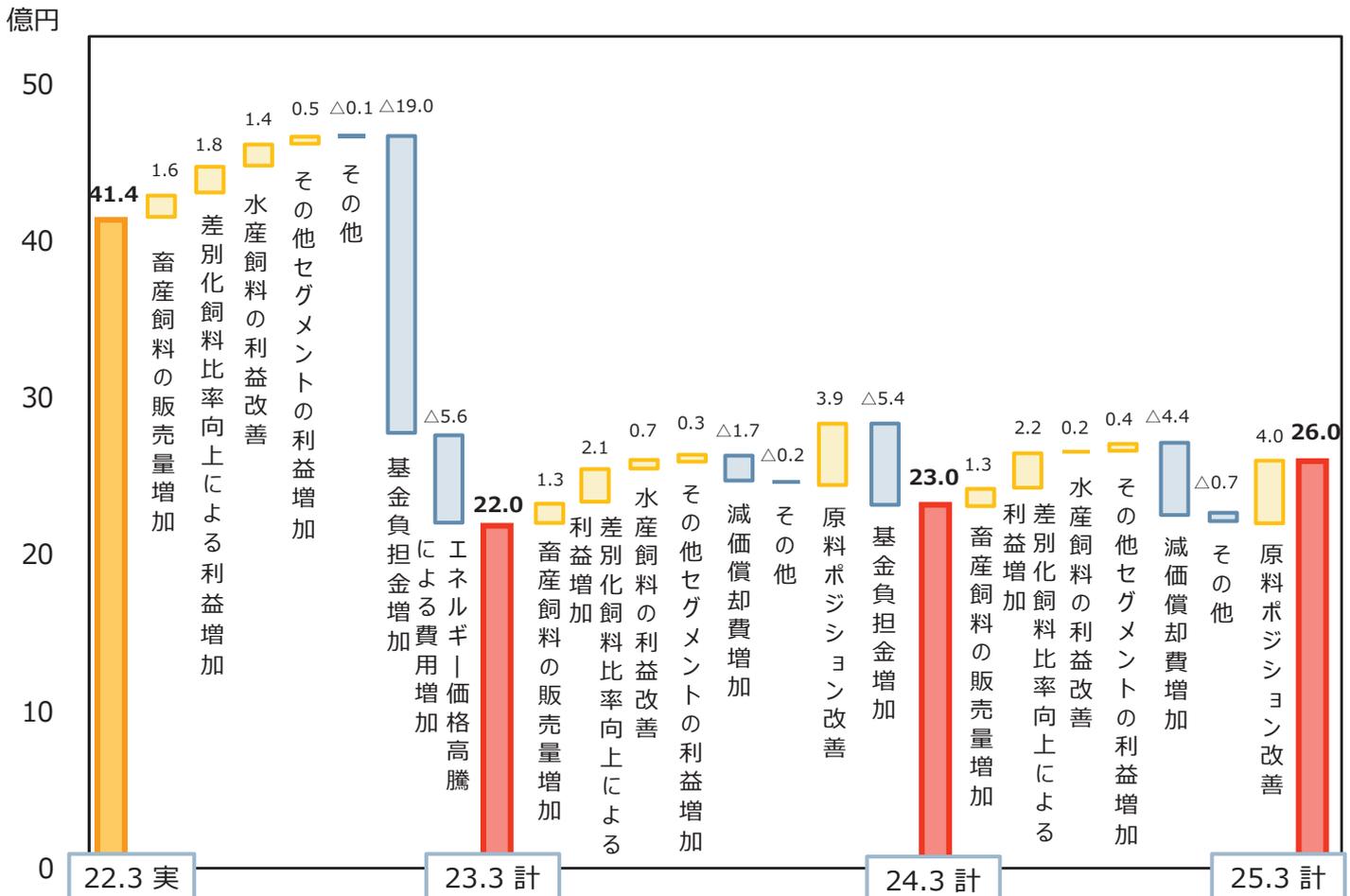
(単位：百万円)

	22.3 実	23.3 計	24.3 計 ^{※1}	25.3 計 ^{※1}
売上高	193,392	212,000	208,000	203,000
飼料	181,333	199,200	195,000	189,800
その他	12,059	12,800	13,000	13,200
営業利益	4,138	2,200	2,300	2,600
経常利益	4,564	2,600	2,700	3,000
セグメント利益	4,577	2,600	2,700	3,000
飼料	4,140	2,100	2,150	2,410
その他	879	930	960	1,000
調整額	△ 442	△ 430	△ 410	△ 410
当期純利益	3,211	1,800	1,850	2,100
設備投資額 ^{※2}	2,862	2,600	5,300	5,100
減価償却費 ^{※2}	2,846	2,790	2,960	3,400

※1 子会社みらい飼料を23年9月に共同出資者の伊藤忠飼料へ売却する予定のため、売上高は減少する見込み
 みらい飼料はコストセンターのため、利益に対する影響は軽微

※2 みらい飼料の設備投資額・減価償却費を除く

8



9

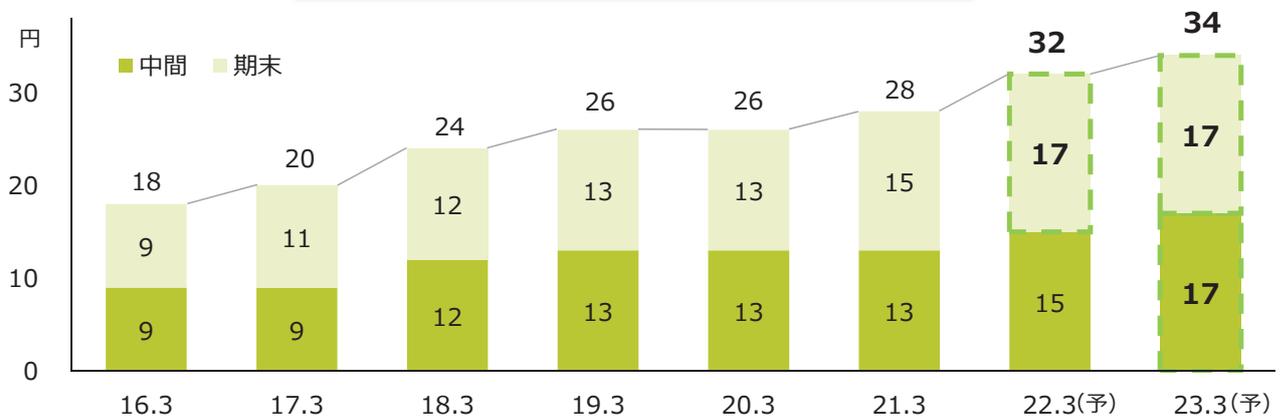
株主還元

還元方針

- ◇ 安定配当を維持向上させる
- ◇ 将来の事業展開や経営環境の変化に対応するために必要な内部留保、業績及び純資産配当率 (DOE) 等を勘案し、配当を決定する
- ◇ 株価水準や財務状況等を勘案して自己株式の取得を機動的に実施し、資本効率の改善と株主の皆様への還元を図る

1株当たり配当金の推移

- ◇ 22.3期の期末は2円/株 増配予定
- ◇ 23.3期の中間・期末配当金ともに17円/株を予定



純資産配当率(%)	1.3	1.3	1.5	1.5	1.4	1.5	1.6	1.6
配当性向 (%)	19.8	17.7	17.1	20.8	16.6	22.2	29.9	56.2



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。